

## 和歌山大学クリエ映像制作プロジェクト

### 映画制作ミッション

作成者：ミッションリーダー 谷村里穂

#### 1. 目標

- ・「第10回 TOHO 学生映画祭」での入賞
- ・クリエ映像制作の映画制作としての基盤を作る

#### 2. 目的

「第10回 TOHO 学生映画祭」で入賞するための短編映画制作を目的としている。この映画祭を選んだ理由としては、映画制作はクリエ映像制作プロジェクトの中で始まって間もないため、まずは学生の中で競っていきたいと思ったからであるのと、この映画祭は学生を対象とした映画祭の中では本格的なものであり、より高いレベルを目指せるのではと考えたからである。

ミッションメンバーには映画制作を通して撮影技術はもちろん、構成や演出などの作品をまとめ上げる力や、撮影場所の許可や役者とのコンタクトをとることなどを通してコミュニケーション能力も培っていくことも目的としている。

また、映画制作は昨年度から本格的に始まり、企画の進め方や撮影方法に不安定な部分があり、映画を制作するのだけで精いっぱいという状態であるため、映画の内容や演出に時間をかけることができていなかった。そのため今年度はクリエ映像制作としての映画制作の基盤を作り、来年度からはより映画の質に重点をおけるように、企画の進め方や撮影方法を大きく見直した。

#### 3. 活動内容



(左図) 映画制作スケジュール

昨年度からの企画の進め方の変更点として大きく2つある。まずミッションメンバーを大きく「演出班」と「撮影班」に分けて活動した。これは昨年度ミッションメンバー全員ですべての活動内容に参加したため、人数が多くまとまりにくいことがあり、情報伝達がうまくいかないことが多かったため、撮影や準備がスムーズにいかないことがあった。演出班と撮影班に分けることによって、演出班は映画の内容や演出に集中し、撮影班は撮影練習や方法に集中することによって、企画がスムーズに進むと考えた。

## 演出班

演出班はプロデューサ、監督、助監督、演出、脚本、絵コンテの担当で構成され、撮影の前段階の映画の内容や演出について話し合いを進めた。まず脚本候補をメンバー内から集め、5つの中から投票で「僕の彼女」に決まった。その後演出班の中で役割を決め、週一回のミーティングで脚本改定を行い、ロケ地や演出内容、役者について話し合った。脚本に関しては副担当教員である木川先生にもアドバイスを頂いた。役者はまず学内で募集をかけたが思ったように集まらず、ミッションメンバーから1人、外部から3人、学内の方にも1人出演を頼むと引き受けてくれた。



(上写真) ロケハン写真とロケハンの様子

## 撮影班

撮影班はカメラ班、照明班、音声班で構成されている。カメラ班は今回の映画でドリー（水平にパンやズームを行う際にカメラを乗せる台）を多く使用したため、主にドリーの練習中心となった。照明班は、新しく照明に関しての本を購入し、その本を使って照明の基礎知識をつけた。音声班は機材の使い方や音声チェックの方法の他に、BGM探しや音声ソフトを使っての音声編集も担当した。

昨年度からの変更点2つめは、総合練習に重点を置いたことである。総合練習とは撮影本番さながらに撮影を行うことである。撮影本番では全員の集中を役者の体力の関係上や、また屋外での撮影では天気の変動もあり、時間がかかると作品の質に影響があるため、撮影時間をかけすぎてはいけない。そのため総合練習を行い、改善点を見つけ、撮影本番が

スムーズに行えるようにした。昨年度は総合練習を数シーンに絞って行ったが、練習をしていないシーンで現場が行き詰まり、撮影に時間がかかってしまったため、今年度は総合練習を全シーン設けた。



(上写真) 総合練習の様子

総合練習が終わり変更点をまとめ、9月末から撮影本番が始まった。撮影には毎回10名前後が参加し、エキストラが必要なシーンでは、プロジェクトメンバーの他にそれぞれ知り合いを呼び人数を集めた。10月前半で撮り終える予定であったが、悪天候や撮り直し、撮影時間の延長が原因で10月後半までかかってしまった。

編集では、今年度新しいソフトを2つ購入した。一つは「Magic Palette Looks 3」という色調編集ソフト、もう一つは「RX4」という音声編集ソフトであり、この二つを使うことで映画のクオリティアップを試みた。編集担当者は主に5人設け、1年生が仮編集したものを上級生が完成させるという形をとった。新しいソフトを導入し使いこなすことに時間がかかってしまい、完成時期が遅れてしまったが、映画祭の締め切りまでに提出することができた。



(上写真) アフレコの様子

#### ～映画概要～

大学生の大西悠太には少し変わっている彼女の和子がいる。ある日悠太はかわいい後輩に好意を持たれ、友達からあの後輩の方がいいと言われたことをきっかけに、和子のことが

本当に好きなのかと思い悩む。しかしある些細なことをきっかけに、答えはすでに自分の中にあることに気が付く。



(写真上) 映画のカット

#### 4. 結果・反省

映画祭の結果は3月末に発表される。

映画制作の土台を作るという点では、昨年度よりも撮影や準備はスムーズにいったと思うが、撮影時間はまだかかりすぎており、来年度も準備段階の進め方や撮影方法を改善する必要があるため、土台が作れたと言い切れる結果にはならなかった。制作がスムーズに行えるようになると、映画の内容や演出により時間をかけることができるようになる。また1年間に制作できる映画の本数が増えるとメンバーの経験数が増え、映画のクオリティが上がり、チームとしても今後力をつけることができると考える。そのため来年度も映画制作の土台を作るという点に重点を置き、今年度の反省を生かし、来年度の映画制作をよりよいものにできるようにしたい。

撮影に時間がかかってしまった理由として、メンバーの知識不足、技術不足が挙げられる。カメラのセット、照明を照らすことに時間がかかってしまい、また演出方法など撮影現場で悩んでしまうことがあったため時間がかかってしまった。来年度からは企画と同時進行でこれまで以上に映画に関しての勉強会、機材練習会を開く必要がある。しかしミッションメンバーでの週一回のミーティングの時間を合わすだけでも大変だったため、時間を増やして行うことは難しい。限られた時間の中での時間の使い方が重要になると考える。また、考えていたカットを撮ることが自分たちの技術力、機材では難しく、それが理由で時間がかかってしまったこともあったため、今ある技術力と撮りたいカットのレベルを合わせることも必要だと分かった。

映画のクオリティに関しては、新しいソフトを2つ導入し、脚本もより短編らしさを意識したため、昨年度よりはレベルアップしたのではと考える。またエンディング曲も和子役の川原千佳さんに制作をお願いした。来年度よりレベルアップするためには、これまでの勉強に加え、映画制作に関する講習会や講演会に参加する必要があると考える。これまでは本やネットの情報を参考に活動してきたが、それだけでは、映像に特化した学部や学

科がない大学の学生としての限界が見えてくると考える。映画祭の入賞作品の出身大学のほとんどが映像に関する勉強ができる大学となっている。やはり直接体験し、話を聞くことでしか学べないことがあると考える。このような講演会は有料のものが多く、有志での参加になると思うが、クオリティアップのため積極的に参加する必要があると考える。

## 5. 感想

私は今年度の映画制作で監督、脚本、プロデューサーを務めさせて頂きました。1年間を通して映画制作に密に関わり、大変なことや思い通りにいかないことが多かったですが、自分で書いた話が映像化することができたことの感動のほうが大きかったです。ミッションリーダーになることで大きな責任感を持ち、また監督として自分の感性と向き合うことが多く、私自身大きく成長することができたと思います。この経験を今後の生活や創作活動で生かしていきたいと思います。

最後に、協同教育センターをはじめとして、当ミッションにご支援・ご協力いただいた全ての方々に心より感謝いたします。